



～建築は、建てることより育てること～

MIZUNO^{しゅんかん}“旬感”だより

vol.205

令和6年3月号

いや・よ・ミ・ビ

弥

広くゆきわたる
あまねく・いよいよ

今月の言葉

「仕事に恵まれる人が
何より大切にしていること」

弘兼憲史著 “弘兼流 好きなことだけやる人生” より

10年ほど前、65歳を過ぎて社会では高齢者と分類される年齢に達した頃、「まだまだ若いつもりなのに、高齢者なんて呼ばれたくない」「老人と呼ばれたくない」という同年齢の読者に対して、「年を取ることは残念なことではなく、成長だと考えよう」と提案したことがありました。

「現実には抗ってみても仕方がないことから、受け入れてプラスに考えたほうがいい」という意味合いもあったのですが、当時、人間の脳細胞は年を取っても増え続けているのではないかという学説が支持されていることを知ったので、成長という言葉を使ったのです。

人間の脳はいまだに解明されていないことも多く、いろいろな研究が進められている途上にあります。そんな中、2018年に米コロンビア大学で「人間は年齢にかかわらず、生涯ずっと脳の神経細胞を増やしている」という研究結果が発表されました。

その発表によると、人間は何歳になっても、脳の海馬という記憶にもっともかかわる部位で神経細胞を増やし続けているのに、神経細胞どうしをつなぐ能力や、神経細胞に酸素を運ぶ能力が衰えてしまうといいます。これが脳の老化の正体だというわけです。

記憶力が落ちるというのも、情報を持っている脳細胞が減るのではなく、脳細胞どうしがうまくつながらなくなることに原因があると考えられています。

だから、脳が酸素を十分に使える状態や、脳細胞がネットワークを作る力さえ維持できれば、人間の脳は何歳になっても成長を続けられるということなのです。脳細胞のネットワークは新たな情報が刺激となって作られるというのですから、好きなことを続けて、脳が情報を得る機会を減らさないことが重要。

これは、健康を維持することは言わずもがなで、好きな仕事を続けることが「生涯成長」の秘訣にもなるということですね。

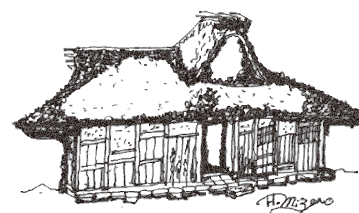
道を歩いていると、“あの内容よかったネ!”と、よく声を掛けていただきます。
旬感だよりが皆さんの脳細胞に役立っている!と実感する一瞬です(笑)。



水野博旨

空間設計 ミズノ vol.82 のデザイン記録

千種区城山町にある昭和塾堂は昭和初期のRC(鉄筋コンクリート)造の建築物です。当初は教育施設として愛知県によって建てられ、戦時には陸軍司令部、戦後は大学の研究施設として利用され、現在はたまに見学会があるとのこと。和洋折衷の建物で趣があり、道路からも目立つ街のランドマークのような建物です。今後、保存・活用されることを願っています。



伝統再築士による 古民家&日本建築講座

伝統再築士とは…次世代に引き継ぎたい文化的価値の高い木造物を残すための専門家

学校の黒板は“西側”と決まっている?!



街中やニュースで卒業生を目にする季節です。ご自身の懐かしい思い出と共に、こんな教室風景が思い浮かぶのではないのでしょうか。

なぜか“黒板が西側にあり、生徒が西向き座る”イメージですね。それは皆さんがほぼこの向きで過ごしたからです。学校教育法などに基き学校設置基準が設けられており、黒板は西側に設置することになっているのです。まだ照明の性能が現代ほど良くなかった時代、日本人に右利きが多いからか、黒板に書く時やノートをとる時に文字を書く部分が手の影にならないようにという配慮です。そのため南側は光を取り込めるよう大きな窓を設置すること。となると、必然的に廊下や出入り口が北側になり、基本的なレイアウトが決まってきます。



他、理科室や化学室は“遠い・寒い・暗い”所にありました。それにも理由があり、薬品などを保管するために、直射日光を避けたり、人があまり通らない場所にする必要があるため北や北東に設置されることが多いのです。なるほど!ですね。

この旬感だよりは
ホームページでも
ご覧いただけます。

株式会社 ミズノ ホームページ→
www.mizuno1950.co.jp



空間設計 ミズノ ホームページ→
www.mizuno-architects.com





3月5日に“冬ごもりをしていた虫たちが土の中から出てくる頃”という意味の『啓蟄(けいちつ)』を迎え、生き物たちが活動を開始します。そして、20日には昼夜の長さがほぼ同じになる『春分』となり、この日を境に少しずつ昼の時間が長くなります。体感的にもいよいよ春を楽しめる時期です。毎年3月初め頃に必ず、「本日、春一番が吹きました！」のニュースを耳にしますが、春一番とは立春から春分までに吹く強い南寄りの風で“春を連れてくる風”といわれています。今年は早々2月半ばに春一番が吹いたそうなので、本格的な春の到来も早まるかもしれません。お花見の準備を早めにして下さいね！

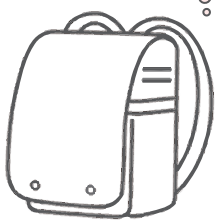
ところで、春分の日なぜ祝日なの？と思っている方も多いでしょう。古くから春分には“自然を称え、生物を慈しむ『春季皇霊祭』”が、秋分には“先祖を敬い、亡くなった人々を偲ぶ『秋季皇霊祭』”という宮中祭祀が現在も行われていることに由来しています。深い意味のある日なんです。

近年、海外で大人気？！

日本のランドセル

春といえば、ランドセルの話題も欠かせません！以前ハリウッド女優がプライベートで持っていたことがきっかけで、世界中で注目されるようになったとか。特徴的な形、自分好みの色を選ぶこと、そして何より実用性の高さが人気の理由といわれます。A4サイズや本などが余裕をもって収納できることや毎日使っても何年も壊れない耐久性の高さが特にビジネスマンに喜ばれているようです。日本の技術満載の逸品ですね！

何色にしようかな？



赤黒世代のみなさん！
“どか”の1年生になった気分でご覧ください。

3年ぶりに！中学生の職場体験学習が実施されました。

毎年恒例となっていた職場体験学習が、市内中学校の2年生5名が来てくれました。ちょっと緊張した面持ちで社長の話を真剣に聞く姿や、お願いした仕事に取り組む姿勢には、つい忘れがちな初心を思い出させてもらい、私たちにとっても貴重な機会です。中学生のみなさん、ありがとうございました。



株式会社ミズノ・空間設計ミズノのご紹介

住宅や店舗の建築・リフォーム・リノベーション等の設計～施工監理まで承っております。本社は港区七番町に、設計部・空間設計ミズノ（一級建築士事務所）は東区の名古屋陶磁器会館内に事務所があり、どちらの場所でもご相談が可能です。夜間や土日祝日、小さなお子様連れでも大丈夫です。（相談は無料です【要予約】）



港区・本社

本社1階はコンサートや個展などメセナイベントを行う多目的スペースで“ヴィレポヌール（本当の幸せ）”と名付けられています。2階が事務所となっておりますので、ご用の際は北側の階段を上り、お声掛け下さい。



東区・名古屋陶磁器会館

春は“文化のみち”散策にピッタリの季節です。お花見しながら建物見学も楽しめます。※“文化のみち”とは…名古屋城から徳川園にかけて歴史的遺産が多く残されている一帯のこと。

お電話は、
052-652-6886
お待ちしております！



会社情報や
施工例は
こちらにて

株式会社ミズノ



空間設計ミズノ



見習い建築士の BOOKS & CINEMAS

■ジャスト・ミート

こんにちは！新人の武政です。今回紹介する映画は日本人建築家、安藤忠雄さん本人のナレーションにより、日本やメキシコに建てた建築をめぐるドキュメンタリー映画です。

安藤さんはプロボクサーから独学で建築を学んでいて、そんな安藤さんがどのように学んできたのか、なぜ学ぼうと思ったかなどを話していたり、安藤さんの名作建築をみながら、どのような考えて設計したのかを話していました。安藤さんはRC(鉄筋コンクリート)造のイメージですが、コンクリートでありながらその地域のコンクリートを使ったり、地形を生かしたりなどその場所でしかできない建築をすることで素晴らしい作品を残しているんだなと思いました。そしてそれがメキシコなど世界各地で仕事をする理由なんだなと思いました。他にも安藤さんの事務所での様子やスパーリング映像なども見れとてもおもしろいので、みなさんもぜひ見てみてください。



住宅・店舗の設計・施工・監理

株式会社 ミズノ

〒455-0001

名古屋市港区七番町5丁目3番地

TEL: 052-652-6886

FAX: 052-661-0653

Web: www.mizuno1950.co.jp

Mail: mizuno@mizuno1950.co.jp

☎ 0120-387-312



・駐車場は社屋南側と郵便局側にございます。
・市営地下鉄「東海通駅」下車、1番出口より徒歩3分

一級建築士事務所
空間設計 ミズノ

〒461-0025

名古屋市東区徳川一丁目10-3

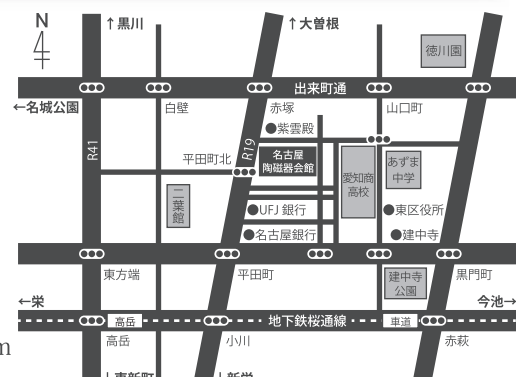
名古屋陶磁器会館2階204号室

TEL: 052-982-8316

FAX: 052-982-8357

Web: www.mizuno-architects.com

住宅設計・デザインリフォーム・商店設計
コンバージョン(用途変更)・など



・最寄の駅 市営地下鉄 桜通線 高岳駅(徒歩20分)
・最寄りのバス停 市バス 赤塚バス停・赤塚白壁バス停